

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	PTX+CBDCA+Bev(卵巣がん)
診療科名	産婦人科
診療科責任者名	大塚 伊佐夫
適応がん種	卵巣癌
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	Ov-030
登録日・更新日	2019年12月24日登録 2023年6月27日改訂
削除日	
出典	アバステン適正使用ガイド J Clin Oncol. 2019 Sep 10;37(26):2317-2328
入力者	今井 瑞稀

投与順に記入(抗がん剤のみ)

induction						
	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	パクリタキセル (パクリタキセル注射液)	注射液30mg、100mg、150mg	175mg/m ²	□IV ■DIV ■CV □側管 □その他()	3時間	day1
	生理食塩液	500mL				
No.2	カルボプラチン (カルボプラチン点滴静注)	点滴静注液50mg、150mg、450mg	AUC 5	□IV ■DIV ■CV □側管 □その他()	1時間	day1
	生理食塩液	250mL				
No.3	ペバシズマブ (ペバシズマブBS点滴静注)	点滴静注用100mg、400mg	15mg/kg	□IV ■DIV ■CV □側管 □その他()	*1	day1
	生理食塩液	100mL				

maintenance						
	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.3	ペバシズマブ (ペバシズマブBS点滴静注)	点滴静注用100mg、400mg	15mg/kg	□IV ■DIV ■CV □側管 □その他()	*1	day1
	生理食塩液	100mL				

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮可能(1日) ・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>中止・延期基準 WBC<2,000/mm³ ANC<1,500/mm³ Hb<8.0g/dL Plt<10万/mm³ T-Bil>2.0mg/dL AST>100IU/L ALT>100IU/L BUN>40mg/dL SCr>1.5/dL 上記以外でGrade3(GTCAEv3.0)以上の有害事象発現時</p> <p>減量基準 以下に該当する場合、次コースのパクリタキセル及びカルボプラチンの20-25%の減量を検討 ・Grade3以上の血小板減少 ・Grade3の発熱性好中球減少 以下に該当する場合、次コースのパクリタキセルの20-25%減量を検討 ・Grade2の神経障害:Grade1に回復するまで休薬</p> <p>【ペバシズマブ点滴静注】 ・±10%の体重変動があった場合、投与量の再計算を検討 いずれかに該当する場合、休薬する ・コントロール不良な高血圧(収縮期血圧>150mmHgまたは拡張期血圧>100mmHgまたは臨床症状のある高血圧)はコントロール可能になり、臨床症状が改善されるまで ・尿蛋白/尿クレアチニン比≥3.5 いずれかに該当する場合、中止する ・Grade3以上の出血(肺、CNSからの出血はGrade2以上) ・ネフローゼ症候群 ・Grade4の高血圧</p>
前投薬	抗5-HT3制吐剤+デキサメタゾン+ファモチジン+クロルフェニラミン+アプレピタントorホスネツピタント
その他の注意事項	<p>・TC+Bevは2-6コース、Bev maintenanceは16コースまで</p> <p>【ペバシズマブ】 ・FIGO Stage III以上の未治療の卵巣癌患者に投与すること ・maintenanceまで行うこと。maintenanceまで行わなかったときの有効性は確立されていない。</p> <p>以下の患者は除外基準として設定されていたため、投与経験がない ・腸閉塞の臨床症状や所見があり、点滴及び/あるいは中心静脈栄養が必要な患者 ・腹腔、骨盤内を含む放射線療法の治療歴がある患者 ・PSが3又は4の患者 ・重症の非治療創傷、潰瘍のある患者 ・試験治療開始前28日以内の腹部の瘻孔、胃腸穿孔、腹腔内の膿瘍の既往歴のある患者 ・ペバシズマブ投与開始前28日以内の大きな外科的手術、開腹生検、大きな外傷のある患者</p> <p>*1 忍容性に応じて90分→60分→30分と短縮可能</p> <p>ペバシズマブ点滴静注を使用する際には月1回、尿定性および尿蛋白/尿クレアチニン比を測定すること</p>

記入者	宇都宮 崇宏
確認者	大塚 伊佐夫